

春風秋霜

8月号

平成27年8月3日
島田市教育委員会だより
教育長 濱田和彦

春風を持って人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 家庭教育講演会に参加して

社会教育課主催の家庭教育講演会「親子関係を良くするコミュニケーション講演会」に参加しました。講師のスクールカウンセラー谷澤久美子さんは、「子供のコミュニケーション能力は、大人が子供の話を聴くことによって育ち、その量が問われる」と言われました。大人が子供の話を聴くから子供は話そうとし、コミュニケーション能力も向上するというのです。

子供とのコミュニケーションが増えると、子供は何を話したらよいか分かり、気持ちを言語化する習慣がつくので、考える力や努力する心が育まれるということです。

内外教育という教育雑誌に大阪大学大学院、小野田正利教授の「スマホと愛着障害」という文章がありました。小野田教授は、スマホの操作に集中し、幼児が話しかけてもしつかりコミュニケーションをとらない母親の対応を「静かな虐待」と言っています。「静かな虐待」が続くと、愛着障害から対人関係が築けない、イライラや不満を抑える力が弱くなるなどの傾向が見られるそうです。一方、子供が話しかけてきた時、大人がしっかり対応していれば、積極的に自己肯定感の高い子が育つということです。

子供の育ちのためには、大人の聴く姿勢が重要だということはよく言われることですが、講演の内容と記事の内容が重なったので紹介しました。

2 学校への寄付について

各学校には、PTAや地域の皆様からの寄付があります。昨年度は、教育機器や書籍・テントなど、11の学校が寄附を受けています。また、22校がリサイクル培養土の寄付も受けています。これらの寄附によって教育活動は充実したと思います。

さて、寄附を受けて充実した教育活動の様子を、寄附していただいた方々に伝えているでしょうか。PTAの場合は、参観会などを通して披露することもできますが、PTA以外の方々の場合は、適切な方法によって感謝の気持ちを伝えることが必要だと思います。地域との結びつきを深めるためにも、丁寧な対応をお願いいたします。

3 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議に参加して

人口減少・超高齢化・少子化に対応し、元気な島田市を市民と共に作っていく会議です。2060年の島田市の人口は、約62,000人と予想する試算もあります。人口減少は地区によって大きな差があり、中には今の1/100になると試算された地区もあります。人口減少は、単に人口が減ることだけでなく、労働人口や税収の減少という一面も持ち、行政サービスの低下につながる心配もあります。

これは、学校教育も避けては通れない問題です。教育のできることは何かを今から考えておく必要があります。人口を増やすためには、出生数を増やすと共に、市民の転出を減らし、転入を増やさなくてはなりません。そのためには、島田市を住みたいと思う魅力ある市にしなければなりません。

学校教育の中でも子供たちに島田市をどんな市にしたいのか、そのために何ができるのかを考えさせなくてはなりません。また、子供たちに今の島田市の魅力を十分に理解

させることも大切です。他地区では行われていない素晴らしい取り組みも、子供が当たり前のことと理解しては、島田市の魅力を理解していることにはなりません。取り組みの素晴らしさや価値をきちんと知らせることが大切になります。

4 千葉山智満寺に行こう

7月17日に千葉山智満寺において新しく作られた弥勒菩薩の開眼法要が行われました。この弥勒菩薩は、倒木した千葉山の頼朝杉（国の天然記念物）で作成しました。この弥勒菩薩は、細く切った金箔をはるという截金（きりがね）技法で装飾されたすばらしい仏像です。

また、この弥勒菩薩像と共に、60年に一度しか開帳しないという本尊千手観音像の特別開帳も行われています。興味のある方はぜひ貴重な仏像を参拝してみたいはいかがでしょうか。

拝観期間 7月18日（土）～9月23日（水） 9：00～17：00

拝観料 大人 800円、中高生 300円、小学生 無料



5 教育センターの活用について

教育センターは相談活動や発達障害等の診断、不登校対応などを行っています。できるだけ子供たちの不安や苦しみを軽減させるために努力しています。本年度は、不登校対策のチャレンジ教室に足を運べない子供への支援にも力を入れ、学校の希望に応じて出前指導も行っています。

気になる子供が居たら、先ず相談です。学校現場をよく理解した職員が対応するので、積極的な活用をお願いします。

肘 かけ 椅子

牧野 高彦 教育委員長

『自作のすすめ』

ことしも夏のキャンプ計画が始まった。キャンプ場でピザを焼きたいというので、試しにピザ釜を子供たちと「自作」してみた。30cm×40cm位の段ボール箱を用意し、内側にアルミホイルを水で薄めた障子のりで貼り付ける。針金を通して各自がトッピングした「自作」のピザ生地をのせる。火おこした炭を入れた皿を下に置く。蓋をして、待つこと17分。ピザ屋さんもうなるであろうふっくらと「おいしいピザ」が焼き上がった。大成功！8月のキャンプでの実施が決まった。

「おおり」二階の「清水文庫」に展示してある、島田市名誉市民の清水真一さんが愛用された天体望遠鏡には、部品の多くに「自作」の跡がある。物不足の当時を偲ばせる多くの工夫が見て取れる。濱田教育長「自作」の竹とんぼは、右利き用と左利き用があり、どちらもすっと空に舞い上がる。

西伊豆のような「自作」で感電事故は困ったものだが、「ないものは自分で作ってみる」「創意工夫」は、大人も子供も夢中にさせる楽しさがある。